2027年3月期　第2四半期　決算補足説明資料

2026年11月12日

株式会社栄電子

東証スタンダード市場　証券コード7567

2027年3月期　第2四半期　業績概要

・主要顧客からの受注が大幅に増加したことなどにより、受注高は前年同期比+154.8%増、売上高も同+71.9%と大きく伸長した。

・増収による利益押上げ効果に加え、高付加価値商材の販売拡大も寄与し、営業利益は310百万円（前年同期比849.1％増）と大幅な増益を達成。

百万円

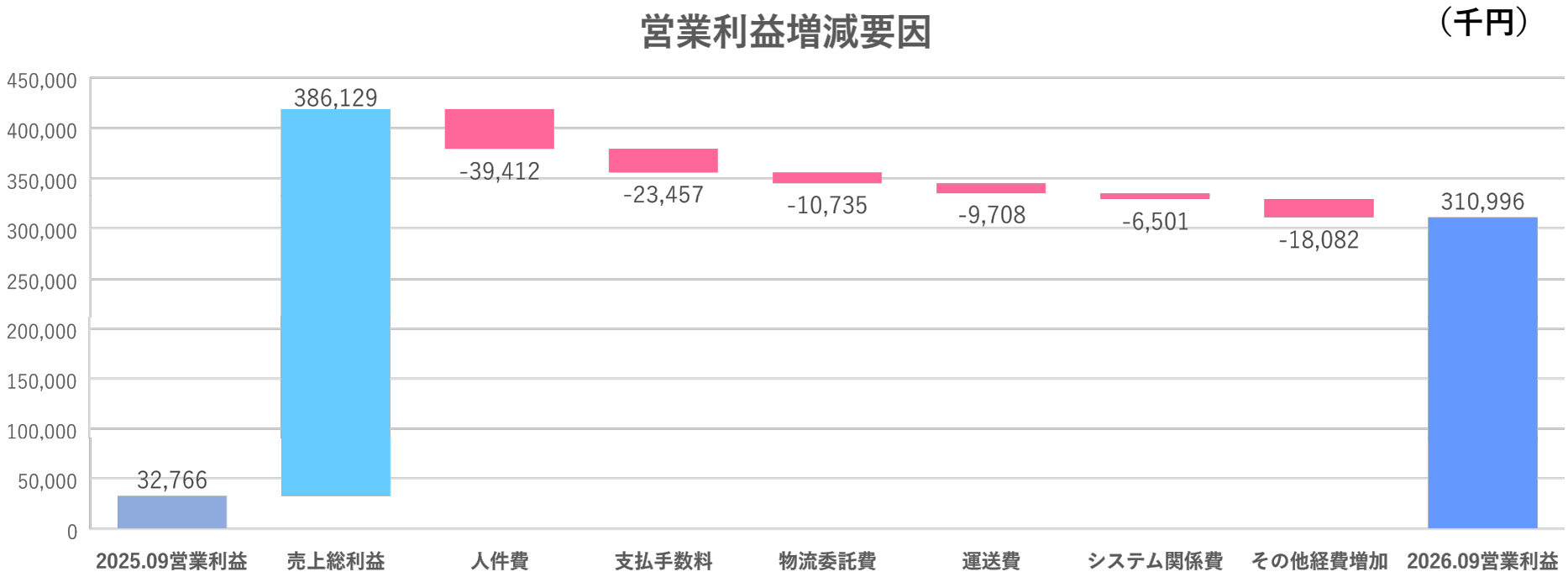
科目	2026年3月期_2Q	2027年3月期_2Q	前年同期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	3,367	5,787	+2,420	+71.9
営業利益	32	310	+278	+849.1
経常利益	46	325	+279	+605.2
当期純利益 ※	42	200	+158	+376.4
1株当たり当期純利益(円)	8.30	39.65	－	－
受注高	3,241	8,260	+5,018	+154.8

※親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益　前年同期比　増減要因

・売上総利益は前年同期比386百万円（70.2%）増加。経費増を吸収し、営業利益は前年同期比278百万円(849.1%)の増加となった。

・販売費及び一般管理費は前年同期比107百万円（20.9%）増加。人件費は採用等により前年同期比39百万円(12.7%)増加、一般管理費は外部物流活用などにより前年同期比68百万円（32.9%）の増加となった。

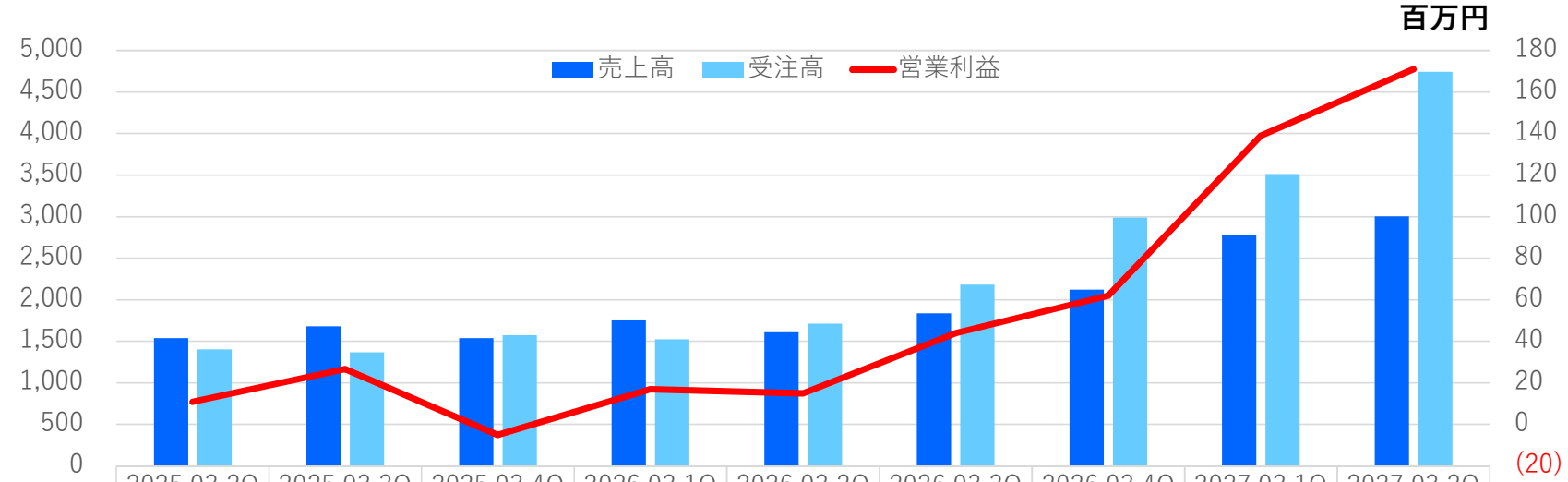


四半期別　売上高・受注高、営業利益トレンド

・売上高は直近四半期及び前年同四半期を上回り、順調に拡大。

・受注高は直近四半期及び前年同四半期を大幅に上回り、高い伸長を維持。

・営業利益は直近四半期及び前年同四半期から拡大し、大幅な増益を更新。



	2025.03 2Q	2025.03 3Q	2025.03 4Q	2026.03 1Q	2026.03 2Q	2026.03 3Q	2026.03 4Q	2027.03 1Q	2027.03 2Q
売上高	1,541	1,681	1,539	1,754	1,612	1,838	2,124	2,781	3,005
受注高	1,406	1,369	1,576	1,525	1,716	2,184	2,993	3,515	4,745
営業利益	11	27	(5)	17	15	44	62	139	171

商品別　売上高･受注高推移

（百万円）

	2026年3月期			2027年3月期		前年同期比	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	（増減額）	（増減率%）
売上高	1,612	1,838	2,124	2,781	3,005	+1,392	+86.4
（商品別内訳）							
一般電子部品	990	1,142	1,296	1,746	1,849	+859	+86.8
電源	274	322	387	476	569	+295	+107.4
電子デバイス	44	48	70	75	86	+42	+96.6
ＩＯＴ機器	65	91	102	88	82	+17	+26.8
センサー	17	19	23	32	22	+4	+25.7
その他	220	214	243	362	394	+173	+78.9
受注高	1,716	2,184	2,993	3,515	4,745	+3,028	+176.5
（商品別内訳）							
一般電子部品	1,072	1,368	1,854	2,273	3,119	+2,047	+190.8
電源	237	350	527	594	842	+605	+255.3
電子デバイス	45	52	94	139	128	+83	+183.6
ＩＯＴ機器	97	93	136	68	61	-35	-36.8
センサー	15	20	72	20	18	+3	+20.5
その他	248	299	307	418	574	+326	+131.3

財政状態

百万円

科目	2026年3月期末	2027年3月期_2Q末	前期末比較	
			増減額	増減率(%)
流動資産	4,378	5,369	+991	+22.6
固定資産	2,982	3,362	+379	+12.7
負債合計	2,542	3,556	+1,013	+39.9
株主資本	4,132	4,238	+105	+2.6
純資産	4,818	5,175	+357	+7.4
総資産	7,360	8,731	+1,370	+18.6
自己資本比率(%)	65.5	59.3	—	—
1株当たり純資産(円)	948.67	1,031.93	—	—
期(四半期)末株価	475	649	—	—
PBR	0.50	0.63	—	—

・流動資産
売上債権の増加635百万、
現預金の増加217百万、
商品の増加141百万

・固定資産
投資有価証券の増加
366百万

・流動負債
仕入債務の増加781百万、
未払法人税等の増加73百万

・固定負債
繰延税金負債の増加111百万円

市場動向

AIインフラ需要の拡大

AIサーバー向け需要拡大を背景に、
関連市場は成長基調で推移

メモリ需給バランスのタイト化

供給ひっ迫懸念を背景に、
各種メモリ搭載製品向け需要が増加

戦略的な先行確保の動き

諸経費の上昇等を見据えた先行調達の
動きが一部継続

留意事項

●地政学リスク
中東情勢等の供給・物流への影響

●部材需給変動
部材供給バランスによる納期動向

●コスト上昇
原材料、労務費、輸送費等の上昇

●投資環境
AI・データセンター関連投資の動向、建設コスト上昇、インフラ制約等による投資計画への影響

業績予想と実績

・主要顧客における在庫調整の進展や生成AI関連需要を背景に、中間期は予想を上回った。

・中間期の業績進捗及び足元の受注状況を踏まえ、通期業績予想と期末配当予想を上方修正。

中間期 連結業績予想と実績（百万円）

科目	前回予想	実績	増減額	増減率（%）
売上高	5,361	5,787	+425	+7.9
経常利益	257	325	+67	+26.4
当期純利益	151	200	+49	+32.7
1株当たり純利益	29円81銭	39円65銭	—	—

通期連結業績予想（百万円）

科目	前回予想	今回予想
売上高	10,071	11,497
経常利益	351	534
当期純利益	203	300
1株当たり純利益	40円03銭	60円18銭

配当予想
1株あたり14円

（内訳）
普通配当　12円
記念配当　2円

トピックス

海外事業展開・営業基盤の強化

海外事業の立ち上げと国内営業拠点の整備を通じ、今後の事業展開を支える営業基盤の構築を進めております。

①台湾子会社の営業開始

STEP 1
会社設立
3 月
2026年
台湾現地法人を設立

→

STEP 2
営業開始
5 月
2026年
現地での営業活動開始

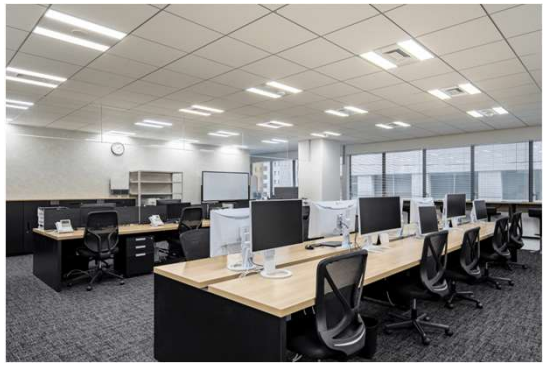
→

STEP 3
事業基盤構築
現在

本社との連携のもと、既存顧客との取引移管に向けた準備を進めるとともに、現地での営業体制の構築に取り組んでおります。

②宮城営業所の移転

宮城営業所を仙台駅近くの利便性の高い立地へ移転するとともに、執務スペースを拡充いたしました。
営業活動の円滑化とお客様への対応力の向上を図り、より充実したサービスを提供できる営業体制の整備を進めております。



※宮城営業所新オフィス

中期経営計画

計画期間：2026年３月期～2028年３月期（3ヶ年）
基本方針：資本コストや株価を意識した経営により企業価値を高める。

目標：2028年3月期

（現状）

ROE・ROIC：未達成
PBR：未達成

2027年3月期見込

連結売上高：114億

2026年3月期実績

連結売上高：73億

連結売上高：150億
ROE/ROIC：８％
PBR：1倍以上

・収益力：特定顧客依存が高い
・資本効率：株主還元の実効性、資産効率、
　　業務インフラに改善余地
・IR：企業価値の伝達力が不十分

中期経営計画

期間	（2026年3月期）	（2027年3月期）	（2028年3月期）
フェーズ	1.基盤構築	2.回復・拡大	3.定着・最大化
位置づけ	成長の基盤を構築する	収益・売上拡大への転換	成長の定着と成果の最大化
収益力向上	・人的資本投資への投資実行 ⇒**外部から高い評価を受けた階層別研修の実施、将来の価値を支える人材の土台作り** ・海外展開強化 ⇒**台湾に現地法人設立**	・高付加価値商材の提案・販売を拡大 ・台湾拠点の稼働開始と新商材の発掘・拡販加速	
資本効率向上	・株主還元の実効性向上 ⇒**普通配当を11円に増額** ・資産効率、業務インフラの改善 ⇒**基幹システム改修**	・株主資本配当率の向上 ・組織全体の生産性向上	
IR・Marcom拡充	・IR・Marcomチーム主導による積極的な情報発信 ⇒**PR TIMESによる情報発信８件** ・発信チャネルの拡充と認知向上 ⇒**展示会開催３回**	・引き続きIR・Marcomチーム主導による積極的な情報発信及び展示会等顧客接点機会創出	

フェーズ１の成果を収益に転換

収益・売上の安定的な成長と最大化

栄電子KPI

栄電子KPI：企業活動の成果を「人的資本」と「物的資本」という経営資源との関係性の中で捉え、
より効率的かつ持続可能な企業成長を目指す。

分類	実績（成果）に関する指標	人的資本に関する指標	物的資本に関する指標
	当社の事業活動の成果を示すもの	従業員一人ひとりの能力開発と企業への貢献を促すための投資と状況を示す	設備や資産の効率的な活用によって環境負荷を低減することを示す
指標	①受注高／人 ②売上高／人 ③営業利益額／人 ④重点顧客受注高 ⑤重点商品受注高	⑥人事評価制度改定 ⑦健康経営認証取得 ⑧採用実績人数 ⑨社員研修費／人 ⑩研修実施時間／人 ⑪社員定着率	⑫システム改修 ⑬不具合発生数 ⑭システム稼働率 ⑮在庫回転率 ⑯不動在庫金額 ⑰システム投資額 ⑱遊休不動産額

栄電子KPI

(百万円)

項目	2026年3月期			2027年3月期	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
従業員数	92	91	91	94	93
1人当たり売上高	36	57	80	30	62
1人当たり受注高	35	59	92	37	88
1人当たり営業利益	0.3	0.8	1.5	1.5	3.3

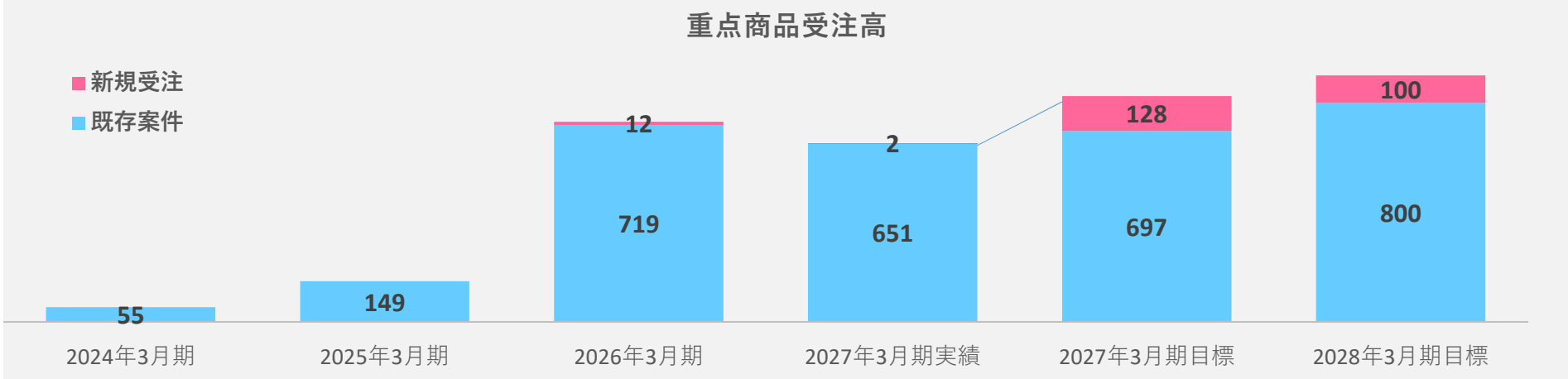
＊従業員数には、パート・アルバイトを含む。
＊金額は、各四半期の累計額。

・当第2四半期の営業利益率は5.4%と前年同四半期1.0%から4.4ポイント増加。

・経費増加要因は、主として人材確保の推進、外部物流の活用拡大、展示会・WEB広告等販促活動の強化による。

栄電子KPI

(百万円)



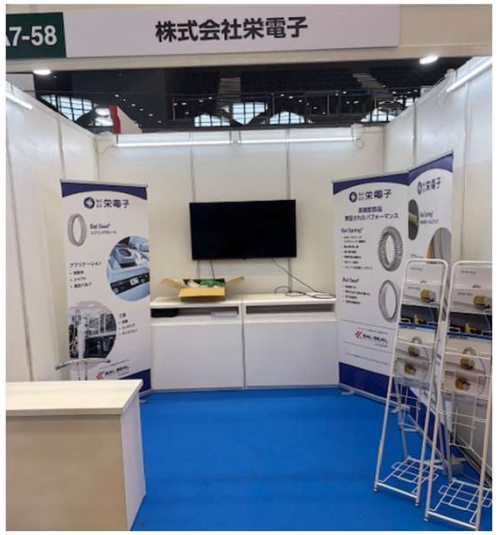
・特定商品群の事業貢献度を測っている。

・2024年3月期に新規代理店となった海外メーカー製品を対象とし、受注拡大及び新規案件獲得に取り組んでいる。

・2027年3月期計画に対し、第２四半期は既存案件で93.4％の進捗、新規案件は2.1％の進捗。

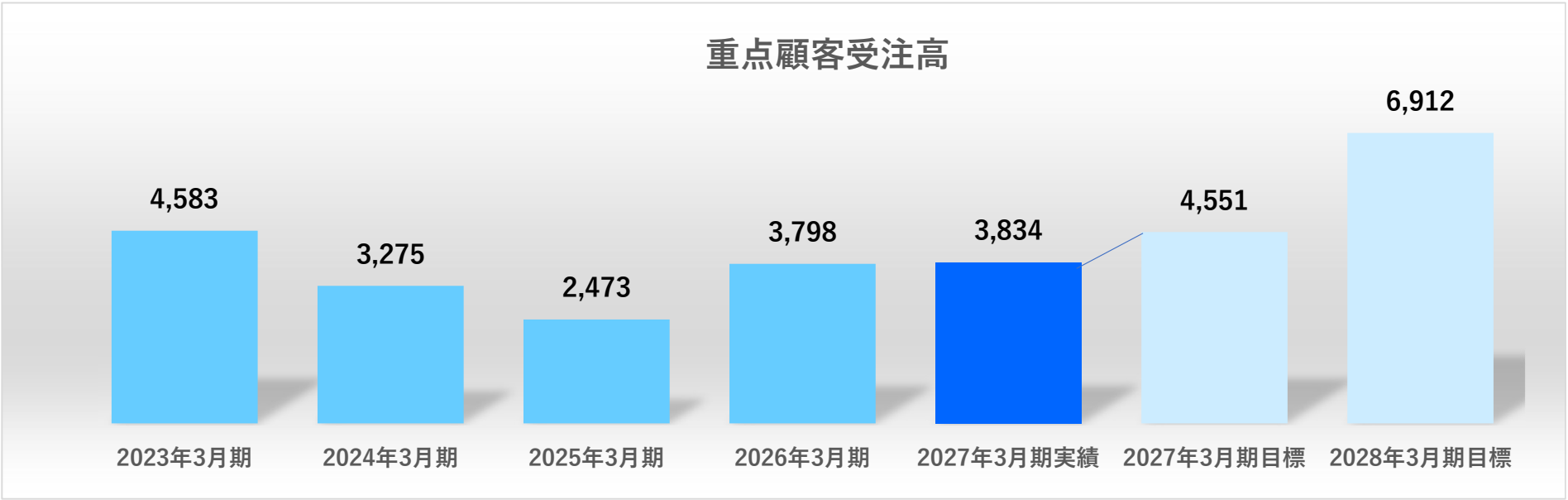
・新規案件獲得・拡販体制に向け、人材採用、訪問活動強化

・2027年3月期も展示会他Marcom活動継続



栄電子KPI

（百万円）



・重点商品の拡販及び新規案件獲得に向けた注力先、並びに各種重点施策の対象先について受注実績及び中期目標に対する進捗を可視化。

・2027年3月期計画に対し、第２四半期は84.2%の進捗。

将来の見通しに関する記述等についてのご注意

本資料は、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成したものであり、いかなる投資勧誘をも目的としたものではありません。

本資料に記載されている当社及び当社グループについての予測、期待、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、様々な要因によって実際に生じる結果と大きく異なる可能性があります。